

平成28年度あんしんケアセンター運営事業実績の抜粋

区	センター名	高齢者人口	高齢化率	
中央区	新千葉	9,377	23.99%	民生委員や地域諸団体等の連絡会議への継続的参加に加えて、生活支援コーディネーターとの連携強化により、新たな地域活動団体や老人会等とも関係構築を深めることができた。これに伴い、出張相談の定期開催や早期介入に繋げることが出来た。
	中央	7,939	18.71%	圏域内の事例検討会では圏域内の主任ケアマネジャーがファシリテーター役を努めるなど、地域事業所と協力して開催することができた。交流会や研修会を通じて相談しやすい環境づくりに努めることができている。また、中学校での認知症キッズサポーター養成講座においても、地域と協力し開催できている。
	千葉寺	7,155	22.53%	・CM研修については医療連携や事例検討に重点を置き、CMのレベルアップにつながっている。 ・主任CM連絡会では、各々の主任CMが役割を自覚し活動している。
	松ヶ丘	10,223	26.49%	総合相談や権利擁護において、各職種間、行政、関係機関と連携しながら対応できている。
	蘇我	11,323	21.70%	蘇我地区、生浜地区、白旗一丁目自治会で継続開催している地域ケア会議は、それぞれの地域特性に応じた議題を設定し、地域住民と共に地域について考える機会となっている。「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」を推進するきっかけ作りとして蘇我地区認知症徘徊声かけ訓練を実施することで地域ケア会議で検討していたことを地域住民にも見える形で開催できた。
花見川区	こてはし台	9,485	33.21%	介護予防普及啓発においては、シニアリーダー連絡会やサロン等への継続参加により関係作りを強化ができた。地域の集まり等での出前講座や認知症サポーター養成講座など継続的に実施できた。
	花見川	11,223	34.58%	年度企画とした地域住民を巻き込んで「声掛け見守り訓練」を、多くの機関や事業者等の協力を得ながら実施できた。
	花園	13,869	27.51%	年度を通じた認知症カフェの開催、運営協力、サポーター養成講座開催を実施できた。また、総合相談からシニアリーダー体操参加への誘導を行った。
	幕張	12,197	18.50%	主任ケアマネの会の参加者が定着し、回を重ねるうちに自主性・向上心・連携を深めることができている。武石町老人会への毎月参加による普及啓発や、検見川公民館での教室立ち上げができた。
稲毛区	山王	11,946	28.65%	・長沼コミュニティセンターとの共催イベントやあやめ台いきいきセンター、柏台ファミリーハイツでの講演の中で介護予防の啓発や二次予防事業の紹介を行った。参加者にチェックシートを行ってもらい、対象者の把握や事業の案内を行うことができた。 ・二次予防事業卒業生を対象にイベントを開催し、卒業後の状態把握とフォローを行うことができた。
	天台	11,565	26.61%	・認知症サポーター養成講座を目標以上（年5回）実施し、地域住民に認知症の方への関わり方、地域での取組について説明を行い、認知症の方が住み慣れた地域でいつまでも生活できるよう支援を行った。 ・地域作りを住民と考える素地作りとして地域ケア会議を区内の有力者（民生委員の会長や自治会組織の会長、地区部会の会長や老人クラブの会長等）に声を掛け見守り活動の住民組織の必要性を伝える機会を作ったが、なかなか区内の小きな組織にまで浸透しなかった。2月22日の地域ケア会議ではもう少し広く参加者を呼びかけ、ワークを通して検討の機会を持つことで身近な問題として一緒に検討できるように修正をした。
	小中台	9,055	22.01%	・当センターの体操教室は誰でも参加できるため、参加者からはこれまで体操に興味がなかった人たちが閉じこもり傾向にある人たちも誘いやすいと、認識してもらっている。また体操教室で紹介した介護予防教室や講演会などにも積極的に参加して下さる方が多く、介護予防へ前向きな意識を感じている。 ・地域作りを住民と考える素地作りとして地域ケア会議を区内の有力者（民生委員の会長や自治会組織の会長、地区部会の会長や老人クラブの会長等）に声を掛け見守り活動の住民組織の必要性を伝える機会を作ったが、なかなか区内の小きな組織にまで浸透しなかった。2月22日の地域ケア会議ではもう少し広く参加者を呼びかけ、ワークを通して検討の機会を持つことで身近な問題として一緒に検討できるように修正をした。
	稲毛	6,381	20.12%	・今年度は市長申し立て支援が3件あり、行政との連携を密に行い、申し立て手続き支援を行うことが出来た。今後も制度の活用が増加すると予想されるため、センターとしても、実践的な権利擁護業務として普及啓発と合わせて、後見人申し立て手続きを積極的に活用していきたい。 ・あんしんランチは、一年を通し参加者のいない月がなく、事前予約や天候不良時のトラブルもなく運営できた。あかりサロン稲毛からランチを提供してもらうことで、あかりサロンとの連携も図ることができ相乗効果となっている。また参加者している高齢者の多くが独居であり、ランチを心待ちにしている声も多く、共食の必要性の高さを感じる事が出来た。また、あんしんカフェは毎月一回、脳トレや体操の他に健康の話など毎月テーマを決めて集いの場を開催している。独居や転居により社会とのつながりが少ない人などが交流することで、心身の健康保持に繋がっている。
若葉区	みつわ台	9,369	26.38%	地域ケア会議を通して地域の自治会や民生委員及び住民の方々と連携が取れ、総合相談の分析も含めて地域の課題を共有することができた。
	桜木	14,798	24.43%	認知症サポーター養成講座の積極的な開催により、認知症予防や地域で支える体制を整えることができた。また、「若葉区子どもカプロジェクト」を通して若い世代への認知症理解へ向けて発信をすることができた。
	千城台	12,174	33.23%	・地域ニーズの充足に必要な新たな社会資源の開発に向けた取り組みとして千城台西県営住宅にて健康体操教室の立ち上げや活動支援を行い、地域高齢者の社会活動や介護予防参加へと繋げることができた。 ・直営介護予防体操教室において、千葉市広域リハビリ支援センターへの情報共有と共に活動内容の助言を受けたことにより、次年度に向けた内容の充実や参加者の意欲継続へつなげることができた。
	大宮台	7,791	44.09%	・圏域内の介護支援専門員に対する茶話会については、計画通り年3回開催し、毎回テーマを決めて勉強会を行った。来年度は、1回を「ケアマネジメント支援のための地域ケア会議」とし、その他2回の茶話会については、内容の充実を図る。 ・シニアリーダー講座修了者が実施する自主サークル、大宮地区の「あやめ会」、白井地区の「シニア体操白井」を後方支援し、地域の活動の場が増えた。今後、新たに大宮町と新宮田地域で自主サークルを立ち上げる。
緑区	鎌取	8,706	14.44%	・総合相談の分析結果を民生委員や自治会、見守り活動団体、ケアマネジャー等へ情報発信し、各会合に参加することで圏域内のニーズ把握に努め、地域課題の支援につなげることができ、新たな地域での関わりがスタートした。また総合相談新規件数は、センターの周知活動を継続的に行ったことで、昨年度の同時期より37%増の結果となった。 ・地域の介護保険サービス事業所の公正中立な情報提供を行うための体制作りとして、圏域内の通所サービス事業所全てを訪問し、情報収集した内容を元に通所マップを作成・配布している。これによりサービス事業所との関係性が深められた。
	誉田	5,963	27.37%	誉田あんしんネットワーク会議や地域ケア会議で築かれた連携は、現実に即したものであり、現場での支援に大変役立っている。この連携の輪に、もっと介護支援専門員を組み込めるような働きかけを行ってきたい。
	土気	11,565	25.40%	健康相談を毎月開催し、来所された方のデータを記録し、次回来所された際の参考としており、毎回10～20名 延べ146名（H26年度より）が来所されている。相談から介護保険の利用や施設入所につながった方や、緊急通報装置設置の案内、二次予防事業、地域の体操教室等への参加につながり、健康を維持されている方も多い。また、体操教室は月に1回定員を12名で開催し出席率は高い。2年前から1年に1回体力測定を実施し、健康への意識を高められるよう、毎回介護予防についてのミニ講話も取り入れながら実施している。
美浜区	真砂	7,628	26.84%	・認知症サポーター養成講座の実施回数は減少してしまっただが、中学校向けに今までと違うスタイルで実施し好評を得た。年代に即した講座を工夫していくことが必要と感じた。 ・地域課題である外出困難をテーマに地域ケア会議を開催できたことは成果である。また、地域の自治会や老人会にシニアリーダー体操やいきいき100歳体操を啓発し、立ち上げにこぎつけた。その活動の中で真砂いきいきセンターや社会福祉協議会、新設の特養などと連携が図れた。
	磯辺	11,630	20.46%	センター主催の体操教室のうち、2ヶ所を自主サークル化することができた。それぞれ参加者の意向に合わせた形となるため途中からの自主化は難しい面もあった。引き続き活動支援を実施していく。
	高洲	11,436	26.64%	社会資源の探求を1年通し行い、社会資源を記したサポートブックを随時更新している。住民型サービスに向けての促しや自助、互助を意識していただくよう伝える機会が多かった。
	幸町	5,575	27.18%	・認知症サポーター養成講座を通し、核家族化、地域のつながりの希薄化、孤立化に対する幼少期からのアプローチや支援の必要性を実感した。今後も講座を継続し、サポーターへの継続支援も検討する。 ・若年層を含め、年代等縦割りにならない支援を行えるよう関係機関の働きかけを行い、連携を強化した。また、困難ケースや複合的な問題を抱えるケースに関し、多職種多方面からの支援を行う事ができた。

※高齢者人口及び高齢化率は平成28年6月30日現在